

北太平洋の漁場でムラサキイカを狙う

風薫る 5 月 5 日、五月晴れの祝日（子どもの日）に、大漁旗をはためかせて、八戸港から中型イカ釣り漁船の船団が出漁した。北太平洋の漁場でムラサキイカの豊漁を目指す出漁で、岸壁は見送る人々の声と和太鼓の演奏であふれた。八戸市魚市場の、主力魚種の水揚げ量は、10 年前と比べサバが 84%減、イカが 71%減と不漁が続いている。不漁が長引くスルメイカから、安定した漁獲が見込まれるムラサキイカに切り替えることで、豊漁が期待されている。

八戸地区の中型イカ釣り漁船は 5 月 5 日に 11 隻、7 日に 2 隻、11 日に 5 隻がムラサキイカ漁に向け出港した。

5 日に行われた株式会社ヤマツ谷地商店の出港セレモニーでは、景気付けに和太鼓が演奏され、組合員の家族や関係者が集まり、記念撮影が行われるなど賑やかな雰囲気に包まれた。

各船は正午を過ぎると汽笛を鳴らし、演歌が流れる中、五色のテープをなびかせながら出港し、見送りに来た家族は岸壁越しに「行ってらっしゃい」や「気をつけて」と、声をかけ見送った。

近年、スルメイカ漁が不漁のため、ムラサキイカ漁に対する期待が大きくなっている。日付変更線付近まで約 10 日間航行し、2 カ月間程度操業を行い、7 月下旬から 8 月上旬に帰港する予定となっている。

「海員だより」